

乳幼児健診事後管理の連けいに関する研究

その6 昭和57年パイロット町における事後管理の実態

伊藤 玲子* 石塚 志津子*
秋田県福祉保健部公衆衛生課
秋田大学医学部小児科教室
角館町, 大森町, 神岡町

I はじめに

チェック児のその後の状況を把握し、あわせて、関連機関ならびに、その追跡方法について調査した。

一昨年、本研究事業開始にあたり、角館町、大森町、神岡町の3町をパイロット地区とし、各年の乳幼児健診状況と、その後の実態を調査し、チェック児の比率や年次推移による変動、関連機関等をみているが、3年目の状況は次の如くである。

なお、3町は平地農村（神岡町）、農山村¹⁾（角館町、大森町）に属し、それぞれの特徴や医療環境の差異はあるが、3町における母子人口動態統計、乳幼児健診計画、実施状況、従事者状況等は3か年（55～57年）いずれも大差がない。（表1.）

III 調査結果

A. 57年の健診状況

3町は、それぞれ異なる医師が担当し（各町の健診医は3か年同じ）、健診のニュアンスも差異はあるが、ま

とめの上からは、あまり大きい問題はないと思われる。
なお、問題別の実態把握の便を考え、極めて無理であるが、前年と同様に、先天性およびその疑い、精神・行動発達に関するもの、感染症、皮膚疾患、発育・栄養その他一般疾患の5分類とした。

1. 乳児：受診数521名（受診率88.0%）のうち、健診時点のチェック児が195名（37.4%）（疾病数233件）である。この児の57年12月までの間に、問題解決132件（56.7%）（医療機関で治癒確認、またはその後の健

II 調査方法

55²⁾、56年³⁾と同様に3町の乳児、1歳6か月児、3歳児健診について、57年の現状と、一昨年、昨年に続き、

表1 パイロット町の状況 その1 保健関係者、医療関係機関 (昭57)

町名	課(係)名	保健婦	栄養士	嘱託助産婦	嘱託外助産婦	医療関係機関
角館町	保健衛生課 15 (4) (国保、保健指導) (公衆衛生、環境)	パート 3 (1)	1	0	1	公立角館総合病院 大曲、仙北広域角館地区休祭日 救急医療センター 角館町保健センター 個人医13名(内5、外5、産3、眼1、全1) 歯科7名
大森町	衛生係 3	2	0	2 非常勤看護婦	1	町立大森病院 個人医3名(全1、内1、内児1) 歯科1名
神岡町	保健課 8 (国保、環境、衛生)	パート 2 (2)	1	3		個人医1名(全) 歯科2名

* 秋田県衛生科学研究所

その2 主なる母子人口動態 (昭56)

町 名	地区 区分	人 口	世帯数 (農家世 帯%)	出生数	乳児死亡		周産期死亡		低体重児届出数				施設外 分娩
					数	死因	数	死因	1000g ～1499	1500 ～1999	2000 ～2499	2500	
角館町	農山村	16,720	4,577 1,364 (29.8)	168	1	窒息死 11か月	0		1	1	5	1	0
大森町	農山村	8,738	1,961 1,426 (72.7)	106	0		2	水頭腫 (1) 不明(1)	0	0	4	1	0
神岡町	平地農村	6,830	1,575 870 (55.2)	63	0		0		0	1	2	0	0

その3 健診計画 (昭57)

町 名	会 場	受付 時間	対象 地区	通知 方法	健 診 事 業				医 師	歯科医	衛 生 教 育
					年回 乳児 1人当回	1.6 歳 1人当回	2歳 1人当回	3歳 1人当回			
角館町	保健センター 基幹集落 センター 老人福祉 センター	12:30 } 13:00	(乳)地区別 (1.6) (3) 全町	個人 広報	24 3	6 1		6 1	公立角館 HP 小児科		母親学級12回 家族計画指導4回
大森町	コミュニティ センター 大森児童館	12:00 } 12:30	全町	個人 健康 カレンダー 推進員	6 2	6 1		3 1	大学小児 科 町立大森 HP	個人1	母親学級5回
神岡町	福祉センター	8:30 } 9:00 } 9:00 } 9:30 } 9:30 } 10:00 (時間差)	全町	個人 広報 愛育班	8 4	3 1	2 1	3 1	小児科 (衛研) 内科小児 科 菅原医院	個人2	母親学級3回 家族計画指導 (個別) 幼児教室2回

乳児 { 角館町 3, 7, 12か月
大森町 3 ～ 8か月
神岡町 3 ～ 12か月

診で問題なし), 現在治療または経過観察中, 放置, 不明含め 101 件 (43.4%) (主として先天性, 発育, 発達など) であり, そのうち保健婦経過観察中 32.2% (発育・発達その他) である。(表 2, 図 1.)

2. 1歳6か月児: 受診数 340 名 (受診率95.5%) のうち, チェック児66名 (19.4%) (疾病数73件) で, 12月の時点での問題解決23件 (31.5%), 治療または検査中および経過観察中等50件 (68.5%) (先天性, 発達

その4 乳幼児健診従事者 (昭57)

町 名	従 事 者	町 村										町 村 計	保 健 所				保 健 所 計	備 考			
		医 師	歯 科 医	保 健 婦	衛 生 係	嘱 託 助 産 婦	栄 養 士	歯 科 衛 生 士	歯 科 助 手	推 進 員	愛 育 班		元 保 健 要 員	こ と ば 教 師	医 師	保 健 婦			栄 養 士	こ と ば 教 師	
角 館 町		1	①	4	1		1	①					9	0 1 1	③		1	0 1 1	⑤	乳児 1・6歳児 3歳児 } 健診にこ とば教師 研修参加	
大 森 町		1	①	2	3				1	1		1	10		1			1			
神 岡 町			①	2	1	2	1	②			3	2	①	15	1	2 3	0 1		3 5		

○ 1・6 歳児, 3 歳児

・その他の疾病など)で、そのうち保健婦観察中28.8% (発達, ことば, その他)である。

3. 3 歳児: 受診数 357 名 (受診率 96.0%)のうち、チェック児78名 (21.8%) (疾病数 82 件)で、12月の時点の問題解決25件 (30.5%)、治療または検査中および経過観察中等57件 (69.5%) (先天性、精神行動発達、その他の疾病)で、そのうち、保健婦による経過観察中が39.0% (ことば、行動発達、発育、環境によるもの等)となった。

以上、57年の状況を、年令別にのべたが、全体として、3 町の57年 1 月～12 月までの合計受診数は 1,218 名で、受診率92.3%である。その健診時点のチェック児が 339 名 (27.8%) 疾病数 388 件となった。

疾患の種類は、先天異常および疑い88件 (22.7%)、精神行動発達に関するもの 130 件 (33.5%)、感染症29 件 (7.5%)、皮膚疾患67件 (17.3%)、発育栄養、その他の疾患74件 (19.1%) である。

この児達の健診時点の指示は、精密検査11.1%、要治療21.1%、福祉およびことばの指導へ13.1%、経過観察45.4%であり、このうち保健婦担当の要経過観察が35.1%となっているが、このほか、初回健診指示で保健指導9.3%とともに、福祉、ことばの指導のほとんどが、保健婦が直接かわりを持つことになる。

57年健診時点チェック児 339 名 (388 件) の12月末の状況は、医療機関で治癒確認 140 件 (36.1%)、次回、その他の健診で治癒確認40件 (10.3%) であり、現在治療または検査中46件 (11.9%)、保健婦による指導観察中128 件 (33.0%)、放置23件 (5.9%)、不明11件 (2.8%) であり、結局継続管理児は、放置、不明も含め 183 名 (208 件) で初回受診の 15.0 % である。

不明の11名は、そけいヘルニア、熱性けいれんのほかは、皮膚疾患、発育不良等で、特に問題ないと思われる。

4. 歯科: 1 歳 6 か月児では、3 町あわせて受診数 332 名 (受診率93.3%) のうち、むし歯保有者66名 (19.9%)、むし歯以外の歯科疾患37名 (11.1%) (不正咬合 30 名, その他 7 名) である。

3 歳児では 345 名 (92.7%) に対し、むし歯保有者265 名 (76.8%)、むし歯以外の歯科疾患29名 (8.4%) (不正咬合23名, その他 6 名) である。(表 3.)

3 か年の経過をみても 3 町いずれも、著明な改善はみられない。1 町で55年に高度不正咬合の児 2 名が治療を開始している。

B. 56年からの追跡児の状況

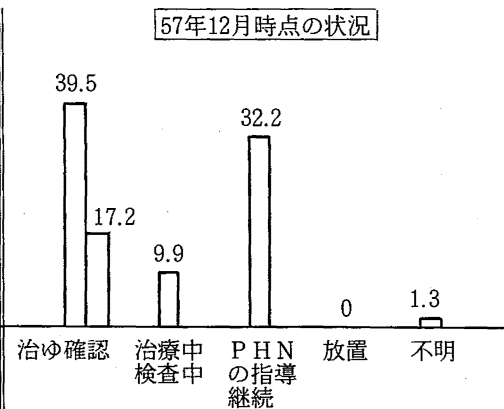
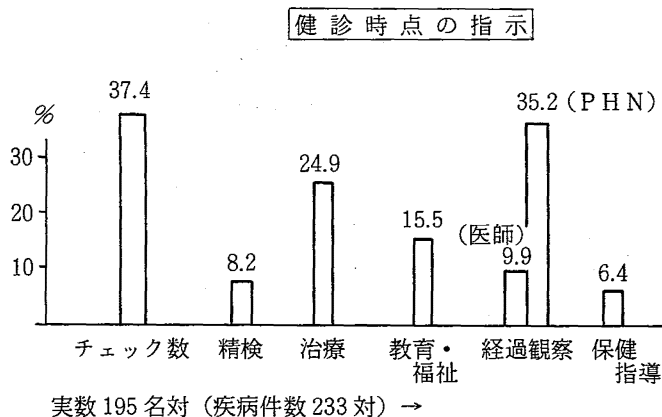
昨年(56)の3 町の乳児、1 歳 6 か月児、3 歳児の受診総数 1,463 名 (受診率 93.5%) の初回健診時点のチェック児は 369 名 (25.2%) であり、56年12月時点で、継続管理されている児 196 名 (13.4%) となった。この児達のさらに 1 年後の57年12月になお継続とされているものは56 名で、初回受診者の 3.8 % となる。

C. 55年 (54年) からの追跡児の状況

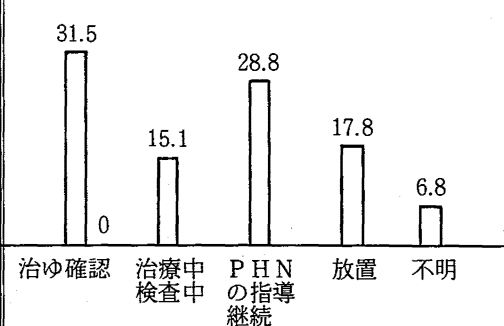
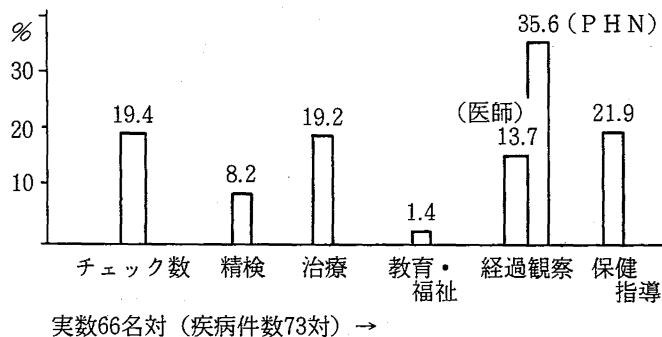
3 町の54, 55年 (2 か年) の乳児、1 歳 6 か月児、3 歳児健診受診総数 2,685 名 (受診率90.4%) に対し、初回健診時点のチェック児は 506 名で、同年12月に続いているもの 289 名 (10.8%)、1 年後の56年12月70名となり、57年12月になお継続とされたものは46名 (1.7%) となった。(図 2.)

以上 3 パイロット町の55年 (54年) ～57年乳幼児健診をまとめてみると、受診数は 3 町あわせて 5,366 名、受診率91.6%で、57年末時点の継続管理児は、乳児、1 歳 6 か月児、3 歳児をあわせ、57年年末再チェック 183 名 (208 件)、56年より56名、55年より46名で、計 285 名 (310 件) である。(表 4., 5.)

乳 児	町 名	受診数(率)
	角 館 町	281 (84.1)
	大 森 町	137 (88.4)
	神 岡 町	103 (100.0)
	計	521 (88.0)



1 歳 6 か 月 児	町 名	受診数(率)
	角 館 町	168 (91.8)
	大 森 町	106 (99.1)
	神 岡 町	66 (100.0)
	計	340 (95.5)



3 歳 児	町 名	受診数(率)
	角 館 町	160 (91.4)
	大 森 町	117 (100.0)
	神 岡 町	80 (100.0)
	計	357 (96.0)

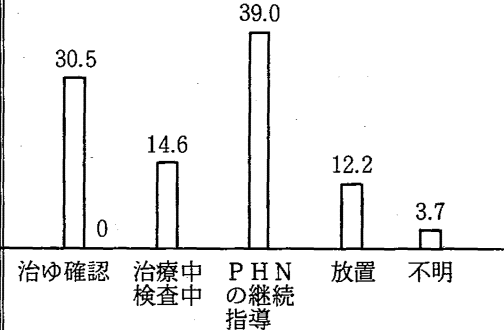
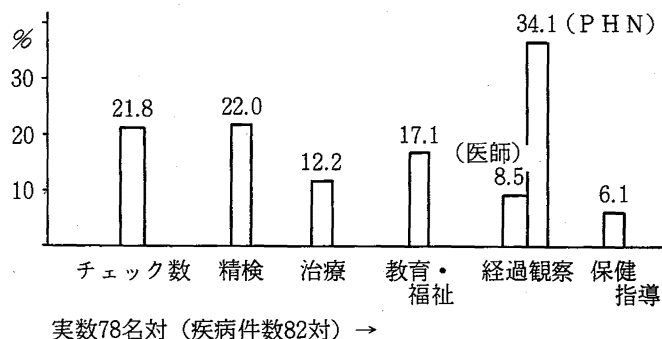


図 1. パイロット町の健診時点とその後の状況
(昭57)

表2. 3パイロット町の健診時点とその後の状況（昭57）

健診	町 名	受診数	受診率	疾病件数 〔実数〕	健 診 時 点 の 指 示					57 年 12 月 時 点 の 状 況						
					精検	治療	（こ）ば 教育 福祉	経 過 観 察		保健 指導	治 療 （精検） 確 認	健 診 で 治療確認	検 査 中 治 療 中	保 健 婦 による 指導観察	放 置	不 明
								医師	保健婦							
乳 児	角館町	281	84.1	101 〔82〕	6	21	36 （36）	12 （1）	19	7	27	28	4	42		
	大森町	137	88.4	67 〔62〕	11	30		7	11	8	38	12	7	9		1
	神岡町	103	100.0	65 〔51〕	2	7		4	52		27		12	24		2
	計	521	88.0	233 〔195〕 (37.4)	19 (8.2)	58 (24.9)	36 (15.5)	23 (9.9)	82 (35.2)	15 (6.4)	92 (39.5)	40 (17.2)	23 (9.9)	75 (32.2)		3 (1.3)
1 歳 か 月 児	角館町	168	91.8	38 〔33〕	5	4		6	7	16	11		5	12	6	4
	大森町	106	99.1	22 〔22〕	1	7		3	11		10		2	3	6	1
	神岡町	66	100.0	13 〔11〕		3	1	1	8		2		4	6	1	
	計	340	95.5	73 〔66〕 (19.4)	6 (8.2)	14 (19.2)	1 (1.4)	10 (13.7)	26 (35.6)	16 (21.9)	23 (31.5)		11 (15.1)	21 (28.8)	13 (17.8)	5 (6.8)
3 歳 児	角館町	160	91.4	29 〔29〕	4	2	12 （11）		8	3	6		2	15	6	
	大森町	117	100.0	28 〔26〕	9	6		6	5	2	12		3	7	4	2
	神岡町	80	100.0	25 〔23〕	5	2	2	1	15		7		7	10		1
	計	357	96.0	82 〔78〕 (21.8)	18 (22.0)	10 (12.2)	14 (17.1)	7 (8.5)	28 (34.1)	5 (6.1)	25 (30.5)		12 (14.6)	32 (39.0)	10 (12.2)	3 (3.7)
合 計		1,218	92.3	388 〔339〕 (27.8)	43 (11.1)	82 (21.1)	51 (13.1)	40 (10.3)	136 (35.1)	36 (9.3)	140 (36.1)	40 (10.3)	46 (11.9)	128 (33.0)	23 (5.9)	11 (2.8)

※ 保健婦も関与

（ ）％

その異常の内容は、先天異常およびその疑い30.0％、精神行動発達関係42.9％、感染症3.9％、皮膚疾患8.4％、発育、その他の疾患14.8％である。（表6）

D. 事後管理児の関係機関および追跡の方法

3町3か年の57年末の継続管理とされている児285名のうち、57年の放置、予後不明を除き251名（276件）の関係機関をみると、一般診療所18.5％、公的病院14.5

％、大学附属病院4.3％、こたばの教室11.3％、肢体不自由児施設2.9％、児童相談所1.4％、保育所2.2％、巡回相談0.7％、保健婦担当44.2％となっている。しかし、例えば公的病院やこたばの教室と関連を持ちながらも、検査や限られた訓練のほかは、保健婦の手にゆだねられている児が56名（22.3％）にものぼっている。（表7）

また、継続管理児の追跡の方法をみると症例により

表3. 3パイロット町歯科健診状況(昭57)

年 令	町 名	受 診 数 率)	むし歯保有者 率)	1人当り保有数	むし歯以外の疾患	
					不正咬合	そ の 他
1 歳 6 か 月	角 館 町	168 (91.8)	33 (19.6)	0.5	26 (15.5)	
	大 森 町	106 (99.1)	24 (22.6)	0.7	3 (2.8)	5 (0.5)
	神 岡 町	58 (87.9)	9 (15.5)	0.5	1 (1.7)	2 (3.4)
	計	332 (93.3)	66 (19.9)	0.6	30 (9.0)	7 (2.1)
3 歳	角 館 町	160 (91.4)	118 (73.8)	4.7	11 (6.9)	
	大 森 町	117 (100.0)	99 (84.6)	5.6	7 (0.6)	6 (5.1)
	神 岡 町	68 (85.0)	48 (70.6)	3.7	5 (0.7)	
	計	345 (92.7)	265 (76.8)	4.8	23 (6.7)	6 (1.7)

表4. 3パイロット町受診数 昭55(54),56,57年

町 名	対象数	受診数	受診率
乳 児	角 館 町	1,398	87.9
	大 森 町	604	85.9
	神 岡 町	492	100.0
	計	2,494	89.8
1 歳 6 か 月	角 館 町	797	85.7
	大 森 町	470	93.2
	神 岡 町	339	98.2
	計	1,606	90.5

町 名	対象数	受診数	受診率
3 歳	角 館 町	959	91.2
	大 森 町	450	100.0
	神 岡 町	347	100.0
	計	1,756	95.2
計	5,856	5,366	91.6

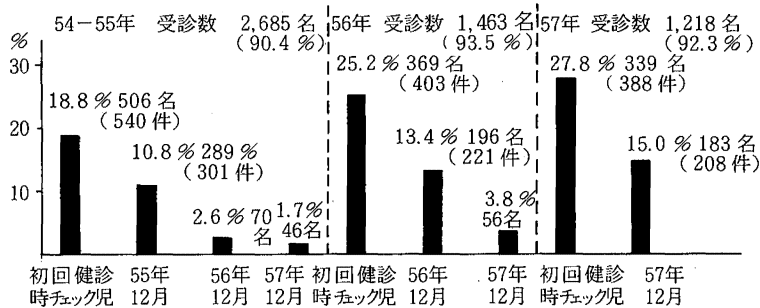


図2. 3パイロット町継続管理の経過

表5. 3パイロット町(角館,大森,神岡)55,56,57年チェック児の経過(実数)

経 過		55 (54) 年					56 年				57 年		
		受診数	初回健診 の時 チェック	55年12月 の時 点	56年12月 の時 点	57年12月 の時 点	受診数	初回健診 の時 チェック	56年12月 の時 点	57年12月 の時 点	受診数	初回健診 の時 チェック	57年12月 の時 点
乳 児	数	1,140	243	108	26	18	579	185	65	10	521	195	85
	%	(89.0)	(21.3)	(9.5)	(2.3)	(1.6)	(92.8)	(32.0)	(11.2)	(1.7)	(88.0)	(37.4)	(16.3)
1歳6か月	数	715	125	91	21	10	399	80	57	23	340	66	46
	%	(87.0)	(17.5)	(12.7)	(2.9)	(1.4)	(93.2)	(20.1)	(14.3)	(5.8)	(95.5)	(19.4)	(13.5)
3 歳	数	830	138	90	23	18	485	104	74	23	357	78	53
	%	(96.3)	(16.6)	(10.8)	(2.8)	(2.2)	(94.5)	(21.4)	(15.3)	(4.7)	(96.0)	(21.8)	(14.8)
計	数	2,685	506	289	70	46	1,463	369	196	56	1,218	339	183
	%	(90.4)	(18.8)	(10.8)	(2.6)	(1.7)	(93.5)	(25.2)	(13.4)	(3.8)	(92.3)	(27.8)	(15.0)

表 6. 3パイロット町要事後管理児の異常内容 285 名 (昭57.12)

疾 患	57年 健診 57年12月	56年継続管理 57年12月	54, 55年継続管理 57年12月	合 計
	208 件 183 名	56名	46名	310 件 285 名
先 天 異 常	51 件 (24.5)	20 (35.7)	22 (47.8)	93 件 (30.0)
精 神・行 動	85 (40.9)	29 (51.8)	19 (41.3)	133 (42.9)
感 染	11 (5.3)	1 (1.8)		12 (3.9)
皮 フ	24 (11.5)	1 (1.8)	1 (2.2)	26 (8.4)
発 育・その他	37 (17.8)	5 (8.9)	4 (8.7)	46 (14.8)

() %

表 7. 3パイロット町関連機関 (昭57)

機 関 追跡児	大 学 院	公 立 院	一 般 診療所	児 童 相談所	太 平 療育園	ことば の教室	保健婦	保育所等	巡 回 談 話
57年 149 名 (174 件) (放置,不明,除く)	6→<1> (3.4)	19→<6> (10.9)	36→<22> (20.7)	1 (0.6)	5→<2> (2.9)	23→<19> (13.2)	83 (47.7)	1 (0.6)	
56年から継続 56名	3 (5.4)	10 (17.9)	8 (14.3)	1→<1> (1.8)	1 (1.8)	3 (5.4)	29 (51.8)	1 (0.8)	
5554年から継続 46名	3 (6.6)	11→<1> (23.9)	7 (15.2)	2 (4.3)	2 (4.3)	5→<4> (10.9)	10 (21.7)	4 (8.7)	2 (4.3)
計 251 名 (276 件)	12 (4.3)	40 (14.5)	51 (18.5)	4 (1.4)	8 (2.9)	31 (11.3)	122 (44.2)	6 (2.2)	2 (0.7)

→< >合計56名 保健婦も関与している。

() %

表 8. 3パイロット町追跡の方法 (昭57)

方 法 追跡児	訪 問	健 診	健 康 相 談	電 話	保育所等	父母から直接	予 防 接種時	ことばの 教室で 面接	不 明
57年 149 名 (174 件)	35 (20.1)	73 (42.0)	26 (14.9)	35 (20.1)	2 (1.1)	1 (0.6)	2 (1.1)		
56年から継続 56名	18 (32.1)	10 (17.9)	8 (14.3)	15 (26.8)	1 (1.8)	1 (1.8)		2 (3.6)	1 (1.8)
5554年から継続 46名	16 (34.8)	7 (15.2)	7 (15.2)	10 (21.7)	6 (13.0)				
計 251 名 (276 件)	69 (25.0)	90 (32.6)	41 (14.9)	60 (21.7)	9 (3.3)	2 (0.7)	2 (0.7)	2 (0.7)	1 (0.4)

() %

いろいろであるが、全体として、健診の場を用いてが32.6%、訪問25.0%、電話21.7%、町の健康相談14.9%が主なものである。55, 56年からの長期になる児だけで見ると訪問が33.3%となっている。(表 8.)

IV 考 察

乳幼児健診事後管理の連けいについて、昭和55年より3か年計画に基づき、3パイロット町(角館町、大森町、神岡町)を設定し、3か年の乳幼児健診の実際を通し、事後管理とのかかわりを調査した。

角館町、大森町は秋田大学医学部小児科教室、神岡町

は当科が担当し、毎年当初に3町、および管轄保健所保健婦の研修会を通じ意志統一を行った。町の規模、保健衛生の環境等それぞれ異なるが、母子人口動態統計、乳幼児検診計画、実施状況、従事者状況のほか、健診チェック児の内容等についても3か年それ程の大差がない状況なので、本県農村の実態（農山村：角館町、大森町、平地農村：神岡町）として、まとめて検討することとした。

57年の状況を主に、55、56年の追跡も加え、その実態をのべたが、本県の農村における乳幼児健診の実情を、一応代表する資料となり得るものと思われる。以下3か年の本研究において得た実態を通じ、表題について少しくのべてみたい。

3パイロット町は、いずれもこれまで、乳幼児健診がよく行われている町である。3町の差異の主な点は、角館町は人口も多く、総合病院のほか、個人医院13、歯科7と3町の中では医療機関に恵まれている。大森町は町立病院1、個人医院3、歯科1の農家町であり、神岡町は奥羽本線沿線の小さな半農の町で、在住医師は内科の老医師1名、歯科2名である。

しかしながら、3町とも小児科専門医が不在で、角館町、大森町には、秋田大学医学部小児科教室より病院に出張診療の形となっており、町の乳幼児健診も行っている。（∴角館町は昭和57年より公立角館総合病院小児科常勤医1名）

3町の年間健診回数は、乳児の場合、出生数の多い角館町が24回、大森町6回、神岡町8回であるが、児1名に対する受診機会は2～4回である。

幼児の場合は、1歳6か月児、3歳児いずれも、健診回数は6～8回から2～3回であるが、児の受診機会は1回で、3町3か年の総受診数は5366名で、受診率91.6%である。

初回健診時点のチェック児は55年18.8%、56年25.2%、57年27.8%となったが、55年は、前述の如く、開始初年であることと、54年の成績も加えたので、チェックの基準が他の2年とやや異なっている。

これらのチェック児は、同年末までに約半数が問題の解決をみており、治療、経過観察として残る児は初回受診総数の10～15%となる。そして、さらに1年後には約3～4%に絞られる。その異常内容は、いわゆる先天異常（35～45%）、精神行動発達に問題あり（40～50%）である。

この児達の関連機関をみると大学附属病院、公的病院、一般診療所等に約40%、ことばの教室、児童相談所等約12%のほか、保健婦による経過観察が約45%となっている。そして、関連機関と連れいを持つ児でも、その約40%は保健婦とのかかわりを持っている。

角館町（乳児、1歳6か月児、3歳児）、神岡町（3歳児）は健診に、ことばの教師が参加していることもあって、ことばに対するチェック児の保健婦への引き継ぎが多い。

一方、前報にのべた如く、69市町村アンケート調査により、56年10月現在継続管理されている児が64市町村で570名であることが判明したが、この児達の1年後の関係機関の状況を追跡してみると、医療機関に關係していた219名のうち、なお医療機関と関連しているのは31.0%にすぎず、残りは福祉教育に25%、保健婦29.8%であり、福祉教育に關係していた224名のうち、医療機関に転じたもの3.8%だけで、他はそのまま福祉教育が52.4%、保健婦39.4%であるが、3パイロット町の実態は、この64市町村のアンケート調査を裏づけるものと解される。

健診後の保健婦とのかかわりの多いことをのべたが、事後管理の連れいとしての本命は、やはり関係機関との問題である。55年には関連機関側の面より調査し、3町の54、55年のチェック児は23か所の機関に關与し、そのうち20が地元、近隣の病・医院で、その年のチェック児の77.2%がかかわっている。

健診後の受診機関のほか、3町の一般乳幼児の受診医療機関を、昭和55年1月～9月までの福祉医療（0～2歳）の受診券よりみると、延受診数としては、地元、近隣の病・医院で受診しているものが、角館町で82.0%、大森町64.0%、神岡町90.2%である。そして機関数の上からは、角館町63機関、大森町72、神岡町58で、このうち、地元、近隣以外の秋田市や、他の市部等の病・医院が50～78%關係しており、思いのほか広範囲にわたっていることが判明している。

保健婦による児の追跡の方法を56、57年と調査したが、今回の健診や、保健婦による健康相談の場を利用が約50%、訪問が約25%、電話による約20%がその主なもので、関係機関との連れいの上に追跡されている児は極めて少ない。

以上のことより乳幼児健診事後管理における連れいとして、保健婦へのかかわりは極めて厚いといわなければならないが、保健婦と医療機関、他機関との連れいが薄いということにもなる。このことは、55年の医療機関側からの調査にみる如く、関係機関の範囲が思いのほか広いということのほか、健診後の事後管理が健診システムの一環として、保健所、市町村、関係機関との間に話合いの持たれていないことにも関連しており、行政としての乳幼児健診体制として今後十分検討していくべきことと思われる。

V ま と め

55年より3か年計画で行われた角館町、大森町、神岡町3町の乳児、1歳6か月児、3歳児健診5366名の実態調査より、次のような結果を得た。

1. 初回健診チェック児は、受診者の約20～30%であり、1年後に約10～20%、2～3年後は2～4%となった。
2. 3町3か年の乳幼児健診で、57年12月時点の要管理（観察）児は285名（55年からのもの46名、56年から56名、57年からの年末再チェック183名）で、その異常内容は、先天異常およびその疑い30.0%、精神行動発達関係42.9%、発育、その他の疾患14.8%が主なものである。
3. 285名の関連機関は、医療機関37.3%、福祉教育機関18.5%、保健婦担当44.2%で、その追跡方法は、健診の場活用32.6%、訪問25.0%、電話21.7%、保健婦健康相談の場14.9%が主なものである。

本研究の一部は、昭和57年度厚生省心身障害研究費によるものである。

文 献

- 1) 秋田県農林水産年報：秋田県農政課（1978）
- 2) 伊藤玲子たち：乳幼児健康診査事後管理の連けいに関する研究，その2，パイロット町における事後管理の実態，秋田県衛生科学研究所報，No.25，121—127（1981）
- 3) 伊藤玲子たち：乳幼児健康診査事後管理の連けいに関する研究，その4，昭和56年パイロット町における事後管理の実態，秋田県衛生科学研究所報，No.26，149—154（1982）